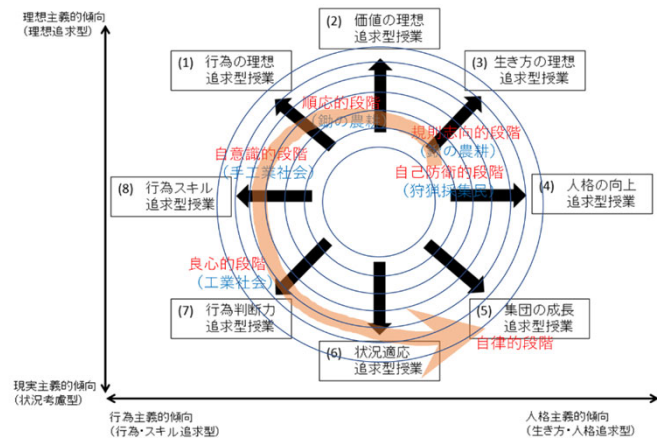


# 生涯発達理論に基づくモラル・エージェンシーの学習理論構築

キーワード[自我発達段階, エージェンシー, 道德教育]

教授 吉田 誠

道德授業のねらいの8類型



段階	視点	善悪判断基準
自己防衛的段階	自分の欲求が通るかどうかを捉える	罰を受けるかどうかで善悪の判断を行う。他者の欠点を非難することで罰を逃れようとしがち。
規則志向的段階	他者が自分をどう見ているかに気づく	集団の善悪判断基準に従って行動して周囲から受け入れられることを強く願う。
順応的段階	内と外の他者を対立的に捉える	仲間と同じ外見や行動をしているかどうかで善悪の判断基準となる。
自意識的段階	自他を独自の違いを持つ人と捉える	自分の個性を周囲に認められることが善悪の判断に影響を及ぼす。自分の主張や行動を受け入れない他者を否定しがち。
良心的段階	自他の関係の過去と未来を展望する	民主主義社会の善悪判断基準を内面化し、批判的思考力や問題解決能力に基づいた責任感を備える。
個人主義的段階	自身の価値体系の外に立つ	立場の相対性に気づき、他者があるがままにさせることを望むため自分の解釈を人に押しつけないことを善とみなす。
自律的段階	複数の文化や世代の視点から捉える	自他が成りうる最高の存在になり、他者の成長の手助けをする信条を妨げる社会的条件を悪とみなす傾向がある。

内容:

これまでに道德科の授業方法を類型化して、日本型人格教育、モラル・アフォーダンス獲得の道德授業、当事者研究的道德授業に加え、心情主義的道德授業、価値主義的道德授業、人物の生き方から学ぶ道德授業、モラルスキルトレーニング、モラルジレンマ授業を併せて8つの授業方法が理想主義と現実主義、行為主義と人格主義の二軸平面上に位置づけられることを明らかにし、それらの方法が目指す道德的問題を捉える見方を「道德授業のねらいの8類型」として提示しました。そして、生涯発達理論の一つであるスザンヌ・クックグロイターの自我発達段階論における視点の発達と道德的問題を捉える8つの見方がゆるやかに対応することに基づいて、子どもたちが自らの道德的問題を捉える見方の成長や発達を自己評価しながら生涯にわたって主体的に成長し発達し続けられるようになるモラル・エージェンシーの発揮を促すための学習理論構築のための研究を行っています。

アピールポイント:

モラル・エージェンシー発揮を促すことで子どもたちが自分らしく生きられるようになることを目指しています。

所属: 地域教育文化学部  
分野: 教育学  
専門: 道德教育学

E-mail : myoshida@e.yamagata-u.ac.jp

Tel : 023- 628-4361

HP :

